

序論

バビロン(新バビロニア帝国)は強固な城壁や美しい建造物を持ち、自分たちを特別な存在と考えていました。今日の箇所では、そんなバビロンに対する神の裁きが語られています。

1. 復讐をする【主】

神様がバビロンを滅ぼしたのは、イスラエルの代わりに復讐するためでした。

バビロンは神の裁きの杖としてイスラエルを攻めましたが、彼らがイスラエルを無慈悲に扱ったため、神は復讐を決めました。

神の民が不当に扱われることを良しとされない【主】は、敵に占領されることのなかったバビロンを奴隷のようにされることを、蹂躪される乙女をイメージする言い方で表現しています。

ローマ 12:19 には、「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」と書かれており、私たちは自分で復讐するのではなく、神に委ねるべきことが強調されています。

2. 思い上がりを打ち碎かれる【主】

バビロンが滅びた理由の二つ目は、彼らの驕り高ぶりです。

彼らは自分たちの安心と楽しみが永遠に続くと考え、罪を裁く存在がいらないと思いつていました。

現代の人々も同様に科学技術を信じて神様を無視していますが、それはバビロンの高慢と同じです。神は驕る者を滅ぼし、へりくだる者を高めるお方です。

ペテロの手紙第一 5:5-6 には、「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」「神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます」とあり、へりくだることの重要性が示されています。

3. バビロンが頼っていたものの無力さ

バビロンが頼っていた呪術や占星術は、神様の裁きの前では無力でした。神の裁きから救い出すことができるのは、【主】イエスキリストだけです。この世のものは永遠の平安を与えることはできません。

まとめ

バビロンは神の復讐と彼らの驕り高ぶりにより滅びました。

私たちは理不尽な苦しみを経験しても、自分で復讐するのではなく、神様に委ねるべきです。

神様は定められた時に正しい裁きをしてくださいます。

また、どんなに成功していても、神の前にへりくだることが重要です。

神様のさばきから私たちを救うのは【主】イエスキリストお一人です。

この世の知恵や力ではなく、イエスキリストに頼ることで永遠の平安を得ることができます。